



輪王寺宮の御遺蹟に

光榮の記念碑を建設 来る三十一日除幕式舉行

明治維新の際の慶應四年五月十五日奥羽三十三藩の乞ひ奉るを機とせ給ひ、幕府の軍艦長八日茨城縣平潟に御發航、石城に入らせられた北白川宮能久親王の御遺蹟は石城出身の郷土研究家根村一氏等によつて記念碑の建設を企圖され、藩平藩土青沼平市長、富家路橋久太郎氏その他の賛を得て殿下が御宿泊遊された泉村の玉露元慈院跡及び

平市高月台並に澤渡村庄屋阿部彌重郎屋敷跡の三ヶ所に建碑、郷土史上の光榮を永く傳へることとなり御遺蹟保存會を結成して、昨、高野石に宮殿下の第三王子小松侯爵の揮毫を請ひ此の除幕式の舉行につき同侯爵家の御都合を伺つておたところ六月三十日に決定したが當日は藩主安藤子及び高月家の親戚白川子その他列席の筈である

輝かしい軍國の華

一家から四勇士

平市胡摩澤町の田山藤吉氏 父上等兵も日露役の勇士

平市宇胡摩澤町一三三魚行商田山藤吉さん(五)は日露役に武勇ある歩兵上等兵であるが妻かねさん(五)との間にあつた二男秀志君(三)が近衛特務兵で今次事變に應召中であるをはじめ三男賢君(三)は飛行兵として露滿國境に活躍、また幼少の折親戚である伊藤家へ養子となつた正雄伍長及び目下北滿の牧野部隊下に奮闘中の五男好雄伍長(二)等四勇士を戦地に送り次いで留守宅に居る六男弘平君(二)の平商二年、七男末男君(二)の警中一年がまた何れもスポーツの

東北視察

木戸内相の

石城郡植田町と錦村が協賛會を組織し、鮫川橋の落成式に木戸内相の東北視察を迎ひ列席を求めて本月中旬頃舉行したい意向であることは既報したが内相の東北視察は都合次第により本月中旬に東京を出發されるもの、如く六縣下の視察旅程は約十日間の由

支那那語

通州はドンチオウ、豊台はフオンタイ、長辛店はチアンシンテイ、良郷はリアンシアン、南口はナンコウ、懷柔はホワイイ、倉州はツァンチオウと云ふ

石双乾蘭の借入資

春蘭立替に卅萬圓 取引四萬圓の四十萬圓に對し

市の開場は六月十二日

石双乾蘭組合の四倉蘭市場では来る十三日から開場に決し春蘭取引に準備する産業組合の立替拂ひ借入につき明二日午前十時から平市マルトモホールに所屬組合二十五ヶ組の代表者を開く筈である今年の春蘭取引見込みは四萬圓(昨年三萬四千圓)の對し

戦地の便り

大陸にも春訪れ

草花咲き蛙鳴く

謹啓、初春の初り其の後皆々には益々御健勝にて御活動のこと、存じ上げます思ひながら御無沙汰まことに申すことなく深く御詫言申上げます、降て小生御陰様に益々元氣旺盛盛軍の一員として只今も中支(〇〇)に於て活動して居ります故他事ながら御安下さい、これも偏に銃後の皆々様の御熱誠なる御祈願と神の御

小學校に誇る健康

優秀な男女共演進

縣下に於ける小學校代表の健康兒童查會は昨三十一日の同會に於て男女各七名を選ばされた中に平市第三校の猪狩優子さんを数えられてゐるが明後三日更に縣の義務部長室で嚴密される各七名中の最良兒は何れも適所に於けるもので男女兩者の健康を上げれば次の如く中央の優勝も獲得されるであらうとの期待をかけられてゐる

鯉の豊漁

魚体は小さいが

濱相場八、九文 初夏の食糧に魅力をもつ鯉況を呈してゐる小名濱は去る三十日二萬二千尾の回船水揚げあり五百尾廻りの砂付八、九文の相場を取引されたが漁場探検中の水試指導船警署丸は約七千尾の鯉を漁獲し今日明日中に歸港の入電があるなど町警署市場は非常な活況である

警防團幹部講習

平市及び湯本、内郷一市一町一ヶ村警防團幹部講習會は来る六日平市公會堂に開催、縣警防隊佐藤警部の講師を以て約二百名の幹部に受講の筈だが夜は防空談話會を併す

植田校武道正課

石城郡植田小學校では武道を正課に決定したので柔剣道具の購入費六百圓の寄附募集をなすことになつた

今朝豊間の火事

石城郡豊間村の北街六九雜貨商鈴木五郎(四)方から今日午前二時二十分頃火災し居宅一棟を焼失して同三時鐘火災原因は取灰の不仕末から損害約百圓の由

不用の自轉車札

石城郡植田町八ヶ村から出た不用の自轉車記號番札は去る三十日で締切つた第一回分二十八貫、四十四圓四十六圓となつたので共々、翌三十

職業紹介所の葉

平職業紹介所編

第二例、(指定の職業以外の職業に従事する者)
職業名 技能程度 一期 二期 三期
木工 一級 一八年二月
木工 二級 一三年十月
木工 三級 一三年十月
木工 四級 一三年十月
木工 五級 一三年十月
木工 六級 一三年十月
木工 七級 一三年十月
木工 八級 一三年十月
木工 九級 一三年十月
木工 十級 一三年十月

植田署接客検査

一日植兵献金

石城郡植田署では管内接客業者の結核及びトラホーム豫防の爲め左記日割場所に於て検査を行ふ

傷病兵の通過

傷病六十餘名は今一日午後一時五分下り列車で平市を通過したので市では更其の他各種團體代表ホームに送迎して感謝の意を表し慰問した

中野家の不幸

平市田町銀橋通り中野齒科醫院々長中野惠次氏長男(九)君は去る九日來風邪の氣味にて臥床中、ところ俄かに急性腦膜炎を併發し人事の限りを盡しての加療も空しく昨廿一日午前八時悲しく永眠した、葬儀は時局柄今日午後四時自宅出棺菩提寺大寶寺に於て授戒後茶屋に附し之を略式本葬とし更に来る六日大寶寺に於て近親のみにて埋骨式と行ふ由であるが同家は昨年來妻女並に岳父浩忠氏の長逝に引き續いての此度の不幸にいたく世の同情をかつてゐる

増産計畫指導

石城郡神谷村では今日午後一時から同村農事實行組合長四十名の總會を開催し増産計畫につき指導上の協議をなす

神谷村の村會

石城郡神谷村では去る三十日三十一日の二日間に亘り村會を開き特別戸数割につき附議決定す

是は記入を要しない、
(一)職業上の身分又は地位例へば何主任「何課長」「組長」「普通工」「見習工」「親方」また徒弟等の如く記入すること、
(二)経験年数、指定の職業に對する経験年数を記入すること、違つた工場又は違つた土地で従事した場合もそれが同じ職業であれば合計すること、見習期間を含むこと、
(三)現在の就業の場所である現在の職業に従事し始めた年月日を記入すること、

農業の発展

大豆收穫の新記録 (下)

秋田縣の篤農家が
三石二斗餘の成績

大豆栽培に連年出品して多收穫栽培法の研究に不撓の努力を続けた結果今回成績發表の第三回秋田縣大豆栽培會(昨年秋季審査を執行)で「陸羽二十七號」で見事三石二斗六升四合の畫期的記録を完成し従來の東北地方大豆の反當平均收穫量六斗餘を根本から覆した。氏の篤い研究によつて生れた多收穫栽培法の概要は左記の如く、品種選擇、種子の播別を嚴にし畦畔と株間をせまくして利用面積の増加を圖り施肥に留意し特に硝石灰を多く使用したこと等が栽培の秘訣である。

▼土質は砂質壤土△深耕深さ五寸位△畦畔一尺八寸△株間四寸△播種六月十日、千島播き△反當播種量五升△中耕除草六月中旬、七月上旬、七月下旬の三回△收穫十月二十五日△品種陸羽二十七號△反當施肥量堆肥三百貫、過燐酸石灰七貫、加里三貫、硝石灰二十貫、人糞尿百五十貫、草木灰三十貫

なほ生産費は金肥四圓五十錢種子代一圓二十五錢、自給肥料十圓四十錢、人夫十三人十三圓、合計三十四圓五十錢で生産價格六十五圓二十八錢、結局現金支出(金肥代)五圓七十五錢、差引五十九圓五十三錢の利益となり自給部を加へた三十四圓五十錢を差引けば三十五圓十三錢の利益となり公課金及び農具等の償却費をみても三十圓以上の利益である(終り)

スペイン GHN 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒
御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
(平二) 西村屋薬舗 (電三)

1939 を行く
逸品揃ひに
帽子 晴雨兼用傘 子供服
各種陳列
ツルヤ
電一四〇

生公堂
山野邊藥局
本市 五丁目角



明雲堂眼科醫院
平田町(三丁目裏川岸通)
入院應需(自炊の便あり)
電話六六九番

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」

平病院 (平市元共済病院跡)
電話六四一(番)
院長 醫學博士 鈴木定藏
副院長 鈴木定藏
小兒科 副院長 鈴木定藏
内科 副院長 高橋俊幸
外科 副院長 鈴木定藏
皮膚泌尿器科 院長 鈴木定藏
物理療法科 院長 鈴木定藏
薬剤科 部長 吉本孝平
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從来す(急患は此の限りにあらず)

募集
永続者には將來の保證を致します
ボーイさん
調理見習婦人
サロンの調理法を習得する
電話五九三
平市銀座街

便利で 經濟な 日下家政婦會の
派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから
何を任せしてもご安心です
平市白銀町十番地 (電話七二三番)
日下家政婦會
會長 日下すい子

二新時代の要求二
附屬事業に等外看護婦を特設いたし
皆様の御用向へ身元確實なる婦人を
派出致します
平市南町 電話三〇七
平看護婦會
會長 高野キヨ
御手不足の御家庭
輕い御病人の付添
妊婦産婦の御家庭
經濟的な御便
宜御用命をお
願ひ致します

和洋銅鐵、金物問屋
店商屋釜
九九・九電

根本 婦人科醫院
平市南町
根本 莊次郎
根本 貞雄
電話三四番
(入院隨時)

債券、公債
両替、金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一(番)